

科目	ゼミナールⅡ(R)	担当	横井 康博	履修学年	3年
時間数	90分×時限×16回(週1回)	履修区分	必修	単位数	2単位

【授業目標・到達目標】

本ゼミにおいては、ゼミナールⅠで行った指導者としての基本的な実践を基に応用編に入る。ペアで行った指導者実践を個人で行える能力を身につけ、さらに実践後のディスカッションにおいて、指導計画の評価についても考える能力も身につけさせる。
また、卒業論文のタイトル決定と計画書の立案に関する指導も並行して行っていく。

【履修注意】

指導計画をしっかりと練った状態で実践を行うため、授業時間外の準備を伴う。
基本的には、全出席。

【評価方法】

出席点90%、指導者実践担当分10%で評価する。

【試験について】

指導者実践の評価とレポート作成を行う。
再試験対象者の条件： 行わない。

【予習・復習】

学修時間は1単位45分が文部科学省指針である。1単位科目は90分の講義に対して45分、2単位科目は90分の講義に対して90分の自宅学習(予習、復習)が必要である。

【教科書】

必要に応じて資料配布を行う。

【参考書】

【その他の注意事項】

【授業計画・内容】

回数	項目	内容
1	オリエンテーション	今後の進め方
2	指導者基礎理論のおさらい	指導者の基礎編について
3	指導者としての実践の方法	担当日を決め、対象者をグループ分け
4	指導者実践の応用Ⅰ	数グループに分け、それぞれ担当者1名を配置して行う
5	指導者実践の応用Ⅱ	種目の特性をしっかりと学ばせる
6	指導者実践の応用Ⅲ	設定時間の厳守
7	指導者実践の応用Ⅳ	授業全体の流れのスムーズさ
8	指導者実践の応用Ⅴ	対象者とのコミュニケーション
9	指導者実践の応用Ⅵ	対象者の設定レベルに合わせた指導方法
10	指導者実践の応用Ⅶ	与えられた環境での最大限の効果について
11	指導者実践の応用Ⅷ	これまでの指導者実践の総決算
12	卒魚論文のテーマ決め	タイトル決定に向けてのゼミ内でのディスカッション
13	卒業論文の資料収集方法	研究方法についての例題の提示
14	卒業論文作成の予定	卒業論文完成までの過程について
15	まとめ	ゼミナールⅡにおける指導者実践を通じてのレポート作成
16	卒業論文タイトル発表	「タイトル」の決定と「目次」提出